



## 日本の看護師国家試験に合格 「学術功労賞」を受賞

皆さん想像してみてください。外国生活1年でその国の言葉で国家試験を受けて合格する、本当に凄いことだと思いませんか？中国から来られた魏 志慧（ぎしけい）さん、張 麗娜（ちょう れいな）さんはそれを成し遂げて、今、鶴巻温泉病院で看護師として働いています。言葉も文化も違う国で働くことは大変なことだと思います。皆さん、お二人の日本での活躍を応援してください。（写真 中央 魏さん 左 張さん）



「この度は、学術功労賞をいただき、本当にありがとうございました。昨年、国家試験を受けるために看護の勉強を一生懸命して、合格したことは本当に嬉しかったです。また一年間、いろいろな人にお世話になり、すごく感謝の気持ちでいっぱいです。私は高齢者の看護を学びたいと思い日本に来ました。現場では、新人として先輩と一緒にケアをしており、時々わからない言葉で先輩に迷惑をかけることもあると思います。しかし、これからも初心を忘れず先輩からの温かい言葉を胸に、早く一人前の看護師になれるように頑張っていきます。」 2階南病棟 看護師 魏 志慧

「この度は、病院賞の学術功労賞をいただきまして、誠にありがとうございます。新人看護師として大変光栄に存じます。私は若いうちに色々経験したいと思い、大学一年生から日本語を勉強して、卒業した後、日本で看護師になりました。今、新人として未熟なところが沢山ありますが、先輩達が理解してくださり、さまざまなことを教えてくれるので、毎日充実した生活を過ごしております。この度の受賞を胸に、仕事も日本語の勉強も頑張っていきます。」 5階南病棟 看護師 張 麗娜

## ▶ 第14回セコム医療グループ 関東地区合同研究発表会

6月15日に開催されました。鶴巻温泉病院からは4 演題の発表がありました。今年、銀賞 1 演題と入賞 1 演題を受賞しました。

《銀賞》 終末期がん患者における経口摂取状況について  
栄養科 三橋 直樹、國見 友恵、診療部 奥津 輝男



緩和ケア病棟には、がん終末期の患者さまが入院され、管理栄養士は、最期まで「食を楽しむためのサポート」を日々行っています。研究では、約7割の患者さまが亡くなる1週間まで食事を召し上がっていたこと、最期の食事は、食形態の工夫や患者さまの希望時に提供が必要であることが分かりました。患者さま、ご家族の不安を少しでも和らげるよう「緩和ケア病棟における食のサポート」のしおりを現在作成しています。（発表者 三橋 直樹 写真 前列中央右）

## 《入賞》 職員同士でほめ合う、感謝の気持ちを伝えることは仕事への意欲向上に繋がるのか 介護福祉士 北村 大輝

3階西病棟の職員をはじめ多くの方々のご協力とご指導により、入賞という結果をいただくことが出来ました。実際にほめ合い・感謝を伝える機会を作り出し、1か月間、病棟のスタッフで取り組み、仕事への意欲が向上するのかを検証し報告しました。今回の研究で私自身、相手を認め、感謝を伝えていく事の大切さを学ぶ事が出来ました。今回学んだ事を心に留めて、より良い職場環境・人間関係を築けるよう努めていきたいと思っています。（写真 前列中央左）

## ▶ ボランティア 庭野さん 10年表彰

6月7日（金）当院にボランティアとして週3回来院されている庭野さんが10年目を迎え、院長より表彰がありました。庭野さんは、患者さまと一緒に様々な色や柄の折り紙で病棟のロビーなど素敵に装飾しています。これからも、日本が誇る伝統文化「おりがみ」で、患者さまやご家族職員を笑顔にしていきたいと思っています。

ボランティア窓口 サービスシステム開発室室長 遠藤 玲子



▶ 診療部病院賞表彰 2018年度 病院賞では診療部も、「銀賞」「学術功労賞」など多くの賞を受賞しました。

2019年7月18日 医療法人社団 三喜会 理事長  
鶴巻温泉病院 鶴巻温泉病院介護医療院 院長 鈴木 龍太

